

検体前処理モジュールシステム LabFLEX3500 が第 40 回機械工業デザイン賞を受賞 [2010.07.30] 検体検査装置

アロカ株式会社（本社：東京都三鷹市牟礼 6-22-1 社長：吉住 実）は、検体前処理モジュールシステム LabFLEX3500 が、2010 年度「第 40 回機械工業デザイン賞」の「日本ロボット工業会賞」を受賞したことを発表しました。

『機械工業デザイン賞』は日刊工業新聞社が 1970 年から主催する、生産財を中心に医療機器や福祉機器なども対象としたデザイン賞です。

2010 年度「第 40 回機械工業デザイン賞」には 34 社 39 件の応募がありました。LabFLEX3500 は優れた機械制御技術が評価され、団体賞である「日本ロボット工業会賞」を授与されました。

贈賞式は 2010 年 7 月 27 日に都内ホテルグランドパレスで開かれました。



LabFLEX3500

アロカは 1970 年代後半より 30 年以上に渡り、国内外の幅広い市場ニーズに対応した検体前処理システム・分注装置を提供してまいりました。この度、前処理工程の更なる効率化をめざし、検体前処理モジュールシステム LabFLEX3500 を開発いたしました。当社製 APS-3000 シリーズ、LabFLEX2500 で創出した特長・機能を継承し、更に子検体容器供給の自動化、3 ノズル分注機構の採用、エラー処理の効率化など、確かな品質に使いやすさをプラスすることで、施設環境にあった自動化システムの構築が可能となっております。

【特長・機能】

1) 高速・高精度分注の実現

アロカの分注装置は、マイクロプレートや分画プレートへ直接分注が可能なほどの高精度分注が特長ですが、新開発の 3 ノズル可変ピッチ分注機構を採用することで、高精度分注の高速化（600 サンプル／時間）を実現しました。

2) 子検体容器供給の自動化

チューブフィーダーを内蔵することで子検体容器の自動供給を可能としました。これまでにもチューブフィーダー内蔵のシステムは存在していましたが、4 管種対応チューブフィーダーの新開発により、市販容器～外部検査委託会社専用容器まで最大 4 管種に対応が可能となり、分注項目ごとに使用容器の選択が可能となりました。

3) リカバリー処理のサポート

検体量不足、フィブリン検知などの分注エラーが発生した際は、処理を中断することなく対象の元検体・子検体をセットにして専用エリアに移載が可能です。元検体・子検体がセットになっていることで、子検体容器を探すことやラベルの再発行などが必要なくなりリカバリー処理がより効率よく処理できます。

4) かんたん操作

LabFLEX3500 は、タッチパネルタイプのメイン操作部だけでなく、各モジュール前面のスイッチ・タッチパネルでのアラームの確認・解除操作が可能となり、操作性が向上しています。

5) システム拡張への対応

LabFLEX3500 は機能別モジュールを組み合わせることで、施設の規模・運用方法や要望に応えるための様々なシステム構築が可能です。

機械工業デザイン賞

機械工業デザイン賞は日刊工業新聞社が経済産業省の後援、日本商工会議所、各工業団体の協賛を得て、わが国工業製品のデザインの振興・発展を目的に 1970 年、日刊工業新聞創刊 55 周年を記念して創設されました。製品の企画力・社会性、機能・性能、操作・安全性、造形処理の 4 項目の審査基準による総合評価によって選定されます。受賞した多くの製品は、それぞれの時代のデザインの方向性を示唆する先端的製品として高く評価されています。